

遠軽町新庁舎建設 基本設計 概要版

ENGARU TOWN OFFICE × FIRE STATION PROJECT

2023.07

目次

基本理念 基本方針	01
計画概要	02
配置計画	03
階層構成	04
平面計画	05
外観イメージ	06
環境計画 防災計画	07
内装計画 ユニバーサル計画 サイン計画	08

※図版はイメージであり、今後の検討により変更の可能性があります

基本理念

「町民の安全安心を守り、人と環境に優しい庁舎」

遠軽町新庁舎建設基本計画の基本理念及び基本方針・整備方針に基づき、町民が使いやすく親しまれる庁舎を目指します。

基本方針

□基本方針1 防災拠点となる庁舎

高い安全性、確実な業務継続性、機動性を発揮するBCP庁舎

- 合理的で十分な耐震性能を備えた庁舎を計画します。
- 日常的に役場と消防の連携が高められる平面計画とし、有事の際に機動力を発揮する計画とします。
- 様々な災害を想定した安全対策を行い、防災拠点としての業務継続が可能な計画とします。
- ライフラインが途絶えても自立可能な防災拠点となる庁舎を計画します。

□基本方針2 全ての人が利用しやすい庁舎

シンプルで分かりやすい庁舎

- 初めて訪れる人にも明快で分かりやすい計画とします。
- 役場と議会、消防の各機能がフロア単位で完結し、全ての人にとって明快で利便性の高い計画とします。
- ユニバーサルデザインの考え方を取入れ、全ての人に優しく平等に迎え入れる計画とします。
- 余裕のある待合空間とカウンター、相談室を設置し、プライバシーに配慮した計画とします。
- デジタルサイネージにより、窓口案内のほか様々な情報提供が行える計画とします。

□基本方針3 機能的で柔軟性のある庁舎

庁舎機能の共有化によりコンパクトでフレキシビリティの高い庁舎

- 役場・消防とも視認性に優れ、自然光や通風が行き届く快適な執務空間を計画します。
- 役場と消防の動線が交差しない明快なエリア配置とした、利便性の高い計画とします。
- ユニバーサルレイアウトの採用により他部署との連携が取りやすく、部署変更にもフレキシブルに対応できる計画とします。
- 役場と消防の会議室やトイレ、機械室等を共有したコンパクトな計画とします。
- 明快なセキュリティーゾーニングと入退出管理により防犯機能を強化した計画とします。
- 眺望に優れた3階にワークラウンジを設け、打合せや交流、昼食利用のほか、職員が多用途に利用できる空間を備えた計画とします。

□基本方針4 環境に優しく経済的な庁舎

遠軽の気候風土を最大限活用し、維持管理に配慮したグリーン庁舎

- 建物形状を整形とすることで外壁面積を縮減し、環境性能に優れたコンパクトな計画とします。
- 自然エネルギー、再生可能エネルギーを積極的に活用し、地球環境に配慮した計画とします。
- 徹底した省エネ手法の採用により ZEB Ready 庁舎を計画します。
- 地場産木材の活用を検討するとともに、カーボンニュートラルに配慮した計画とします。
- 耐久性に優れた材料や機器を採用するとともに清掃・メンテナンスに配慮し、ライフサイクルコストを低減する計画とします。

□基本方針5 消防活動拠点となる庁舎

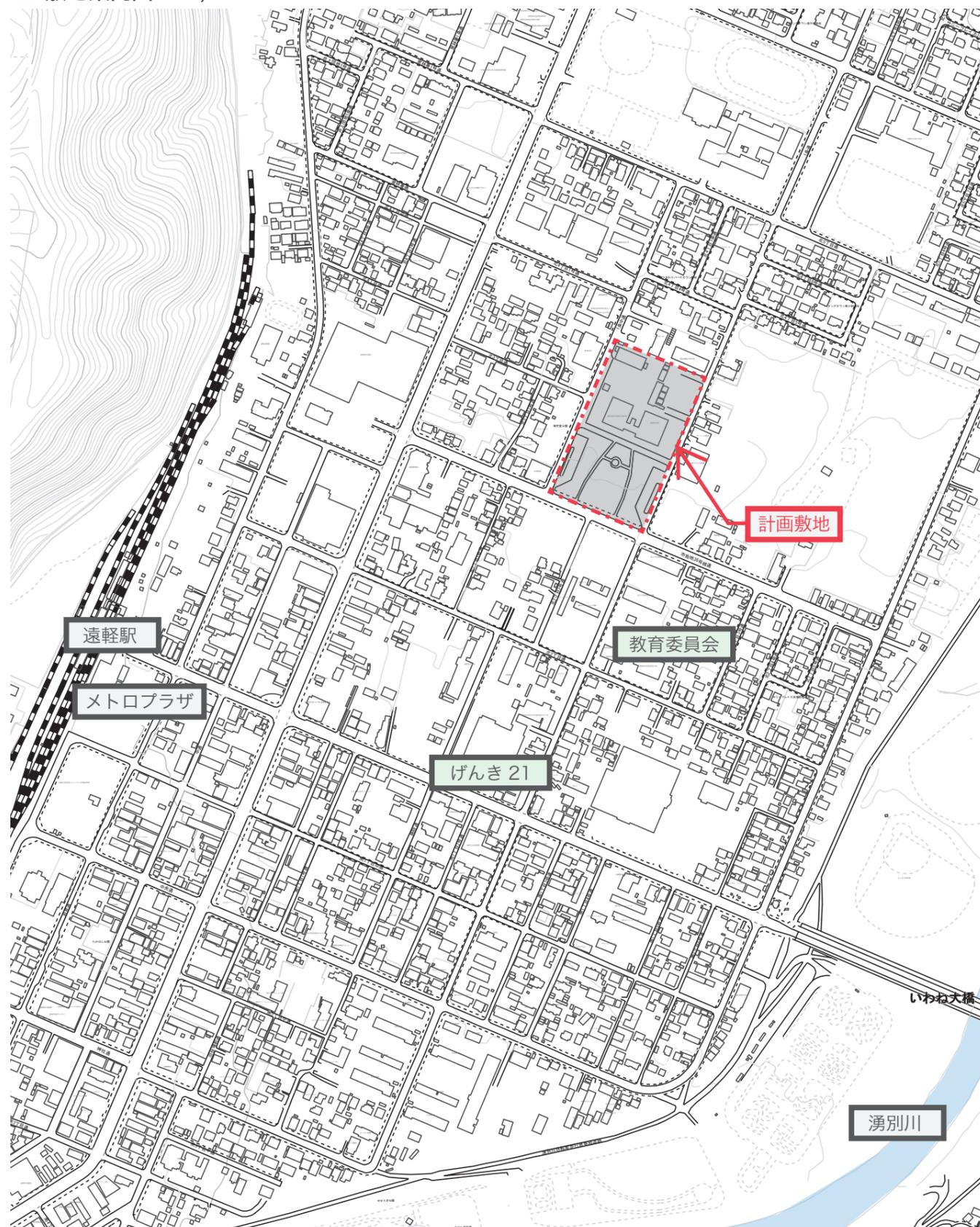
執務・待機環境の充実でパフォーマンスを最大化する消防庁舎

- 速やかな出動を可能とする出動空地と最短の出動動線により高い機動性が確保された計画とします。
- 見通しの良い執務空間と待機空間をつなぐ吹抜け、屋外の訓練広場を見渡せる食堂・休憩室等を中心に、署内の連帯感が高められる計画とします。
- 多様な訓練を可能とする独立型訓練塔と訓練広場を計画します。
- 指令システムの継続運用と機器更新に配慮した計画とします。
- 食堂・仮眠室・水廻り等の生活空間の快適性とプライバシーに配慮した計画とします。



計画概要

敷地案内図 1:6,000



計画敷地概要

敷地の場所	北海道紋別郡遠軽町1条通北3丁目1番地1
敷地面積	17,587.13㎡
法定建ぺい率の 最高限度	60% + 10% (角地緩和) = 70%
法定容積率の 最高限度	200%
接道状況	南側 93.27 m 市街地36号線通(町道) 東側 173.78 m 1条通(町道) 西側 174.75 m 1条中通(町道) (計画敷地内の北3丁目通は廃道予定)

法的規制

区域指定	都市計画区域、法22条指定区域
用途地域	第2種住居地域
防火指定	指定なし
日影規制	5m - 4時間 10m - 2.5時間 測定面 +4.0m

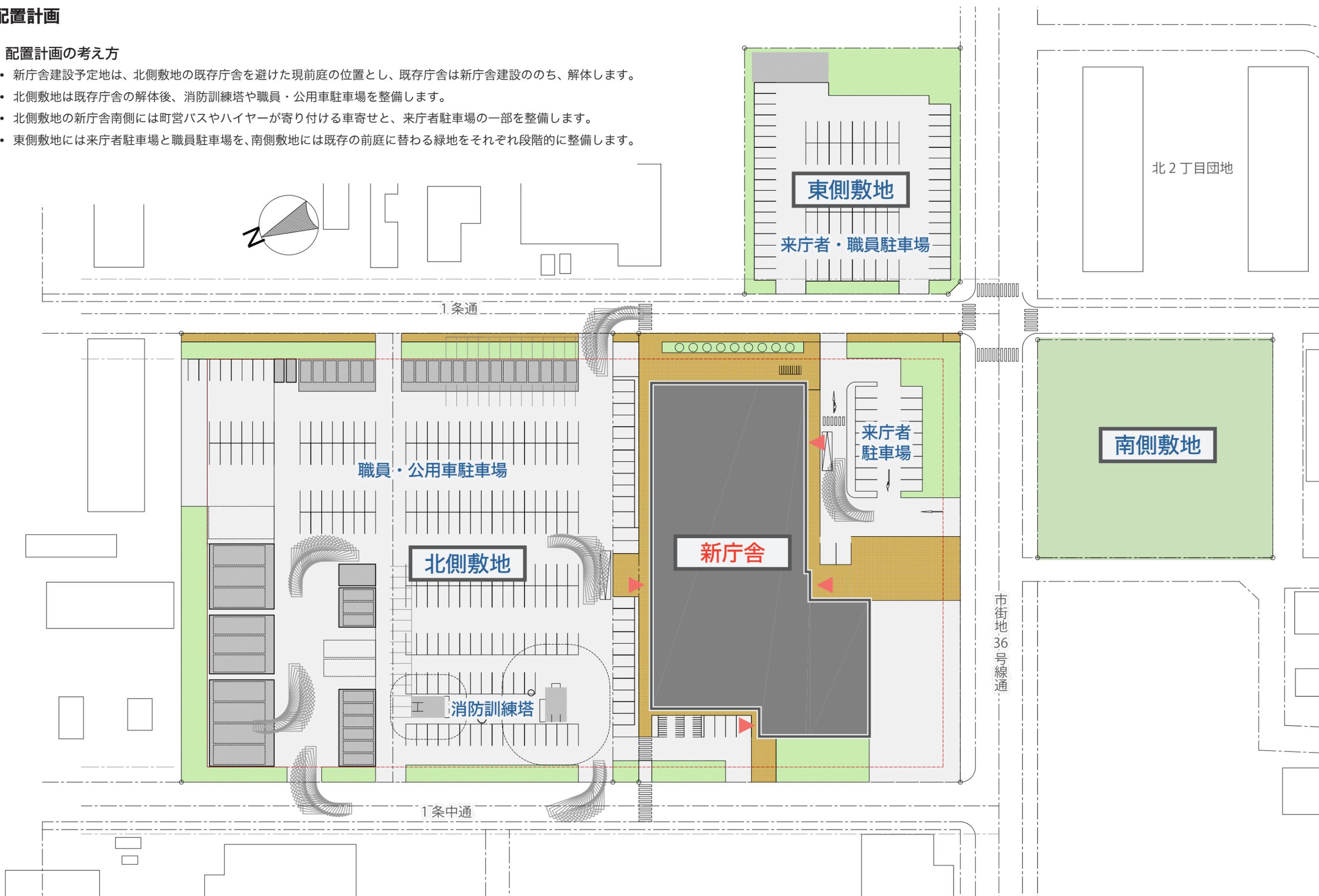
計画建物概要

主要用途	役場庁舎・消防庁舎
構造種別	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
基礎形式	直接基礎
建築面積	3,348.87㎡
延床面積	7,211.11㎡ (メゾネット収納、モーターサイレン塔部分除く)
階数	地上3階建て
高さ(最高高さ)	16.15m
駐車場	来庁者約60台 / 職員約190台 / 公用車約30台 (その他公用車車庫あり)
駐輪場	来庁者約10台

配置計画

■ 配置計画の考え方

- 新庁舎建設予定地は、北側敷地の既存庁舎を避けた現前庭の位置とし、既存庁舎は新庁舎建設ののち、解体します。
- 北側敷地は既存庁舎の解体後、消防訓練塔や職員・公用車駐車を整備します。
- 北側敷地の新庁舎南側には町営バスやハイヤーが寄り付ける車寄せと、来庁者駐車場の一部を整備します。
- 東側敷地には来庁者駐車場と職員駐車を、南側敷地には既存の前庭に替わる緑地をそれぞれ段階的に整備します。

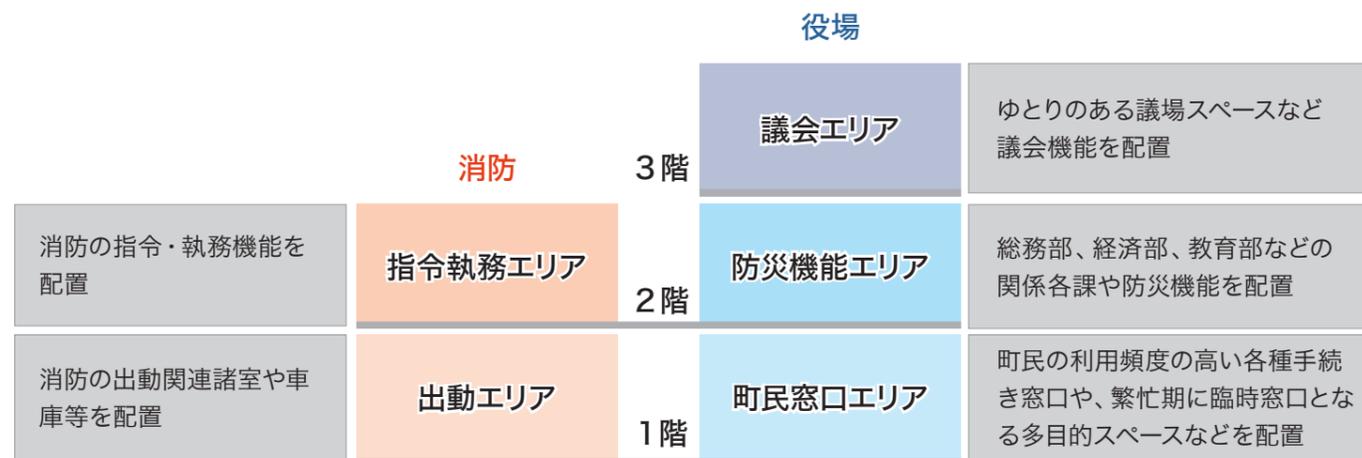
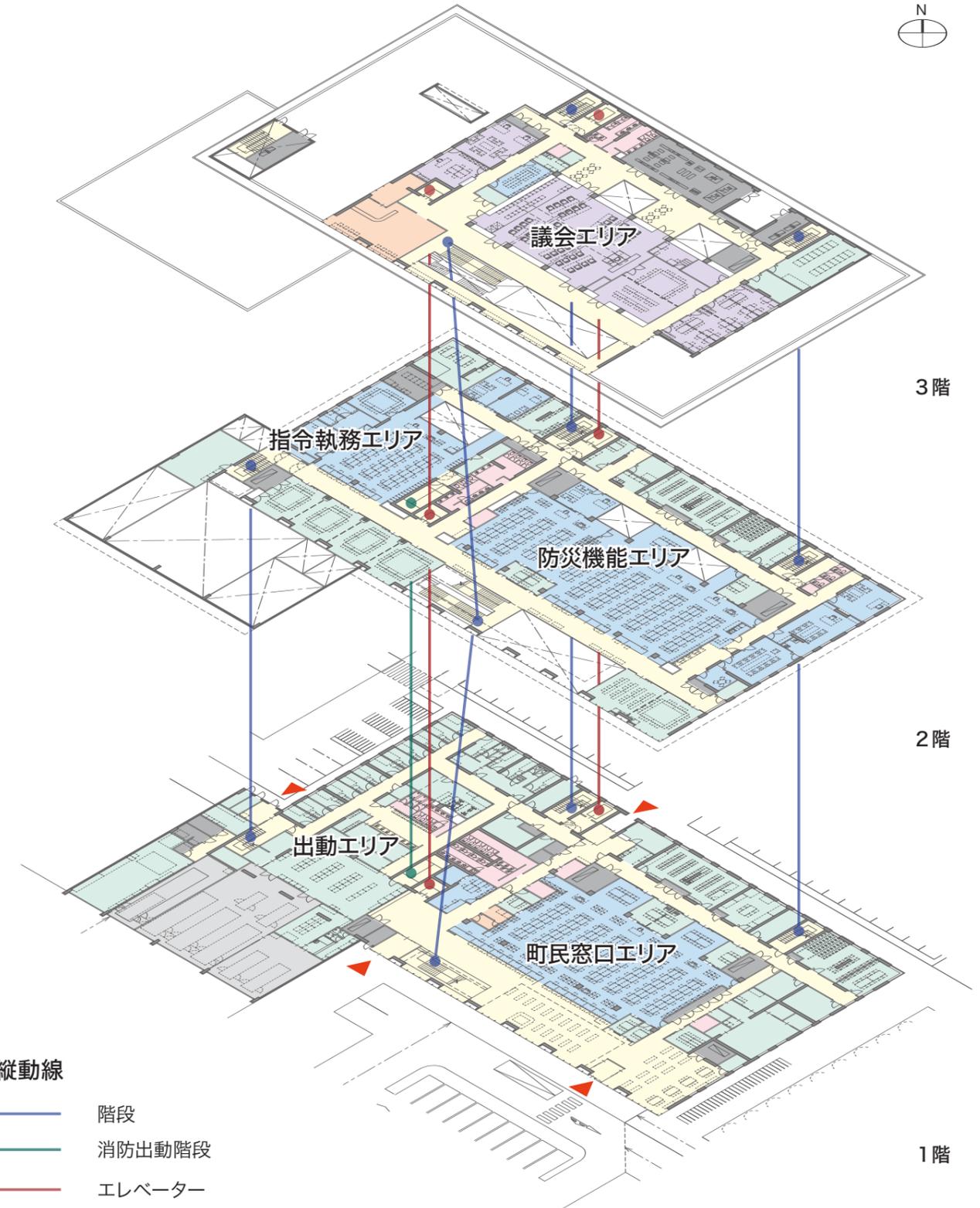


階層構成

■ 階層計画の考え方

- 役場と消防の合築であることから、役場窓口の利便性や消防の出動機能に最大限配慮した配置とします。
- 役場側では町民の複数の手続きをできる限りまとめて行うことができるよう、関連ある手続きを行う窓口を1階に集約配置することで、町民の移動を少なくし利便性の向上を図ります。
- 消防側では1階に出動関連の消防車庫や防火衣準備室、仮眠室等を集約することで迅速な消火・救急活動の実現に配慮します。
- 2階は役場・消防の窓口が並び、トイレや会議室を役場と消防で共用するフロアとします。
- 役場側3階には議会関連機能を配置します。

■ フロア配置計画



平面計画

■ 平面計画の考え方

□ 1階 町民対応に特化した役場窓口エリアと、救急出動への機能性に配慮した消防出動エリア

建物東側に役場、西側に消防を配置する明確なゾーニングとします。

- 役場**
- 複数のライフイベントに伴う手続き業務を行う町民対応を中心とした窓口を集約します。
 - 確定申告など臨時窓口にも対応できる多目的スペースを配置し、休日夜間に個別で運営できるよう配慮します。

- 消防**
- 仮眠室や体力錬成室など、日常的な勤務に使う諸室を集約配置します。
 - 2階出動階段から防火衣準備室、消防車庫へのスムーズな動線を確保し、緊急性を要する活動に配慮します。

□ 2階 役場と消防が東西でつながる一体型窓口

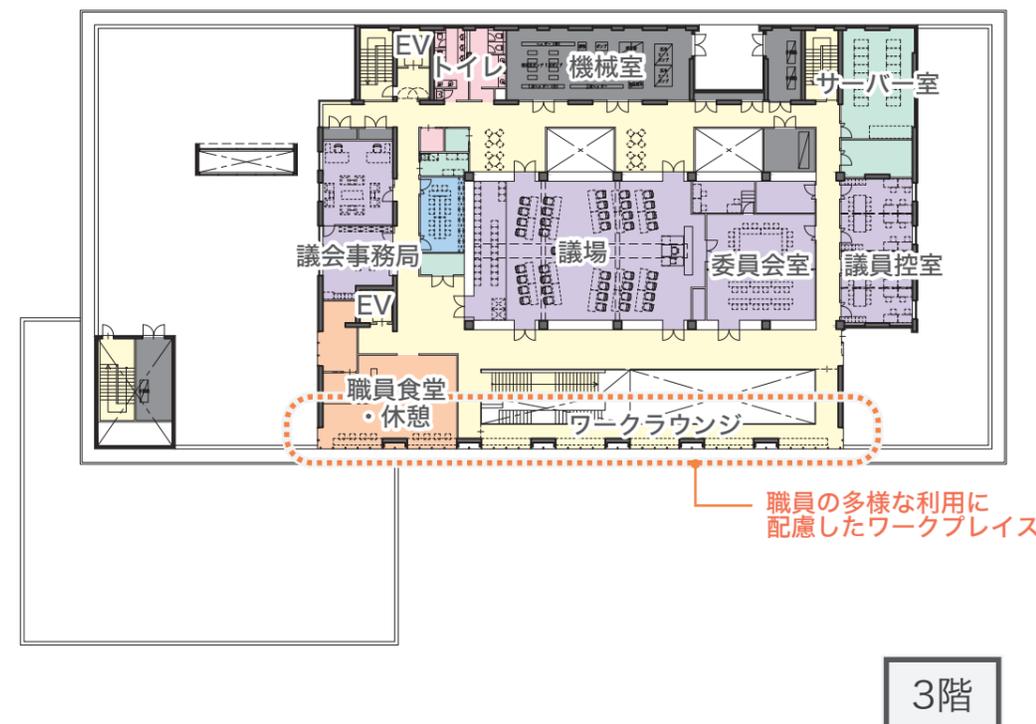
町民が行き来できる東西につながる廊下には役場と消防の窓口が一体的につながる構成とします。南側の各種会議室は役場と消防で共用とし、運用率の高いフレキシブルな対応を可能とします。

- 役場**
- 総務部、経済部、教育部の関係各課や、町長室等を配置し、町長室は災害時に防災関係諸室と連携がとりやすい位置とします。

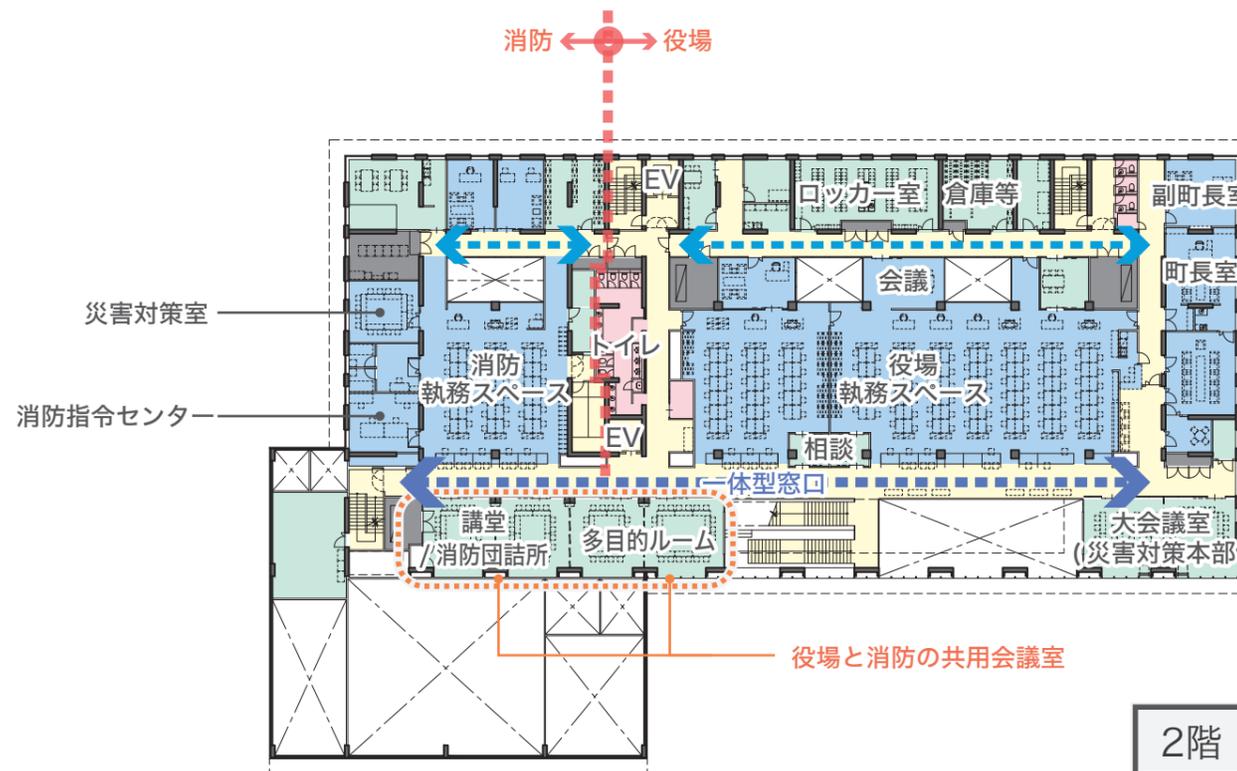
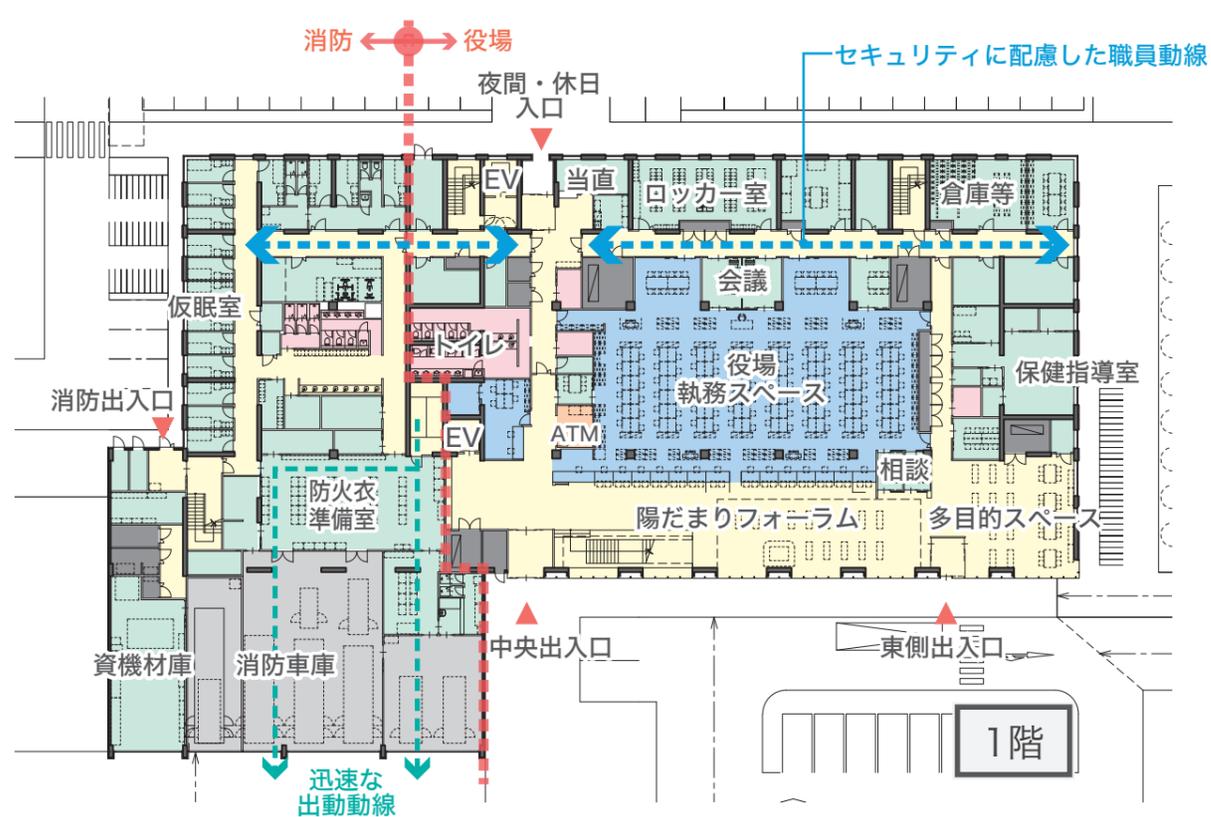
- 消防**
- 消防指令センターや災害対策室といった指令エリアと日常的な業務を行う執務スペースを近接し設けます。

□ 3階 町民に開かれた議会

- 役場**
- 議会機能をワンフロアに集約して配置します。
 - 南側には職員の多様な利用に配慮した食堂休憩スペースやワークラウンジを配置します。



職員の多様な利用に配慮したワークスペース



役場と消防の共用会議室

執務エリア 便利施設 その他諸室 トイレ・シャワー室など 議会関係諸室 消防車両 機械室

外観イメージ



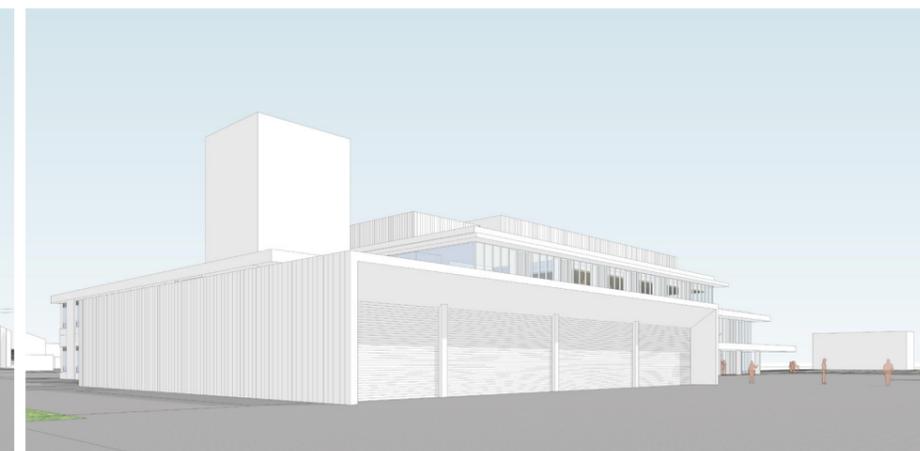
敷地南より



敷地北東より



敷地北西より



敷地南西より

環境計画

■ 環境計画の考え方

□ 熱負荷を軽減する外装計画

- 断熱サッシや高性能ガラスを採用し、外への熱の放散（冬）や外からの熱の侵入（夏）を抑えます。

□ 省エネルギー性能の高い設備システム

- 換気に伴い、外に排出される空気から回収した熱を用い、取り入れる空気を加熱（冷却）できる全熱交換器を設置し、換気に伴う熱の損失を抑えます。
- 執務室や陽だまりフォーラムは床面から温風や冷風を吹き出し、人がいる区域のみを空調することで、空調対象空間を小さくすることができる床吹出空調を採用し、空調のエネルギー消費を抑えます。
- 消費エネルギーが少ないLED照明を設置します。
- 高効率変圧器を採用し、電気変圧時のエネルギーの無駄を抑えます。
- 窓から入る光の明るさに応じた照明の制御を行うとともに、人感センサーにより無駄な点灯を防止することで、照明のエネルギー消費を抑えます。

□ 自然エネルギー・再生可能エネルギーの有効活用

- 吹抜け部を利用した重力換気により、効率的な自然換気、自然通風を促します。
- 地中の熱を冷暖房に利用する地中熱システムを計画します。
- 太陽光発電設備を設置します。

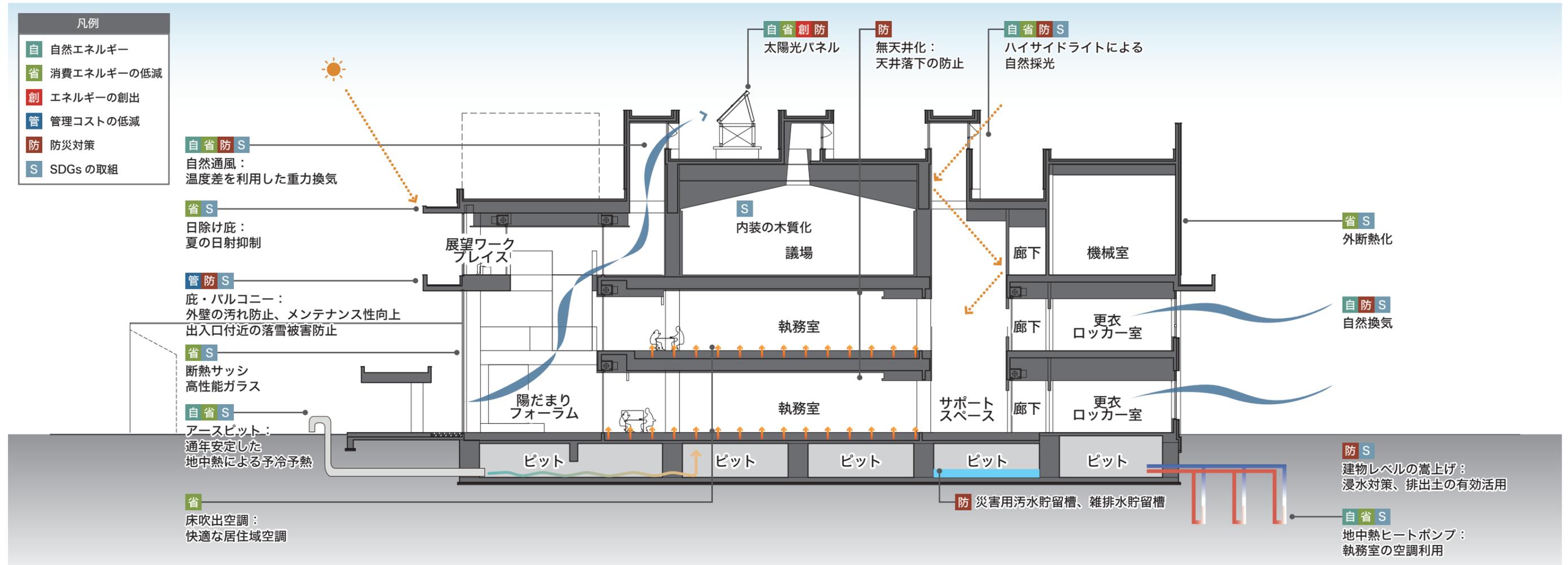
防災計画

■ ライフラインの確保に対する考え方

- インフラ途絶時でも3日間防災拠点としての機能を確保します。
- 災害時においても3日分の電源が確保できるよう非常用発電機を設置します。また、給油体制を確保し燃料補給を行うことで、最大7日間の電源確保を可能とします。
- 災害時における上水は3日分を、雑用水は7日分を備蓄します。
- 公共下水道が途絶えても地下ピットにトイレ等の汚水を7日分貯留することができる災害時汚水貯留槽及び雑排水貯留槽を設けます。
- 各々のエリアに要する空調、給排水、照明、コンセントが非常用発電機によって稼働することにより、災害時に自立できる計画とします。

■ 防災計画の考え方

- インフラ途絶時の利用エリアは、最小限の範囲とします。
- 役場2階に危機対策室を配置します。また、隣接して初期の情報収集を行う会議室を設置します。
- 危機対策室と災害対策本部、町長室、副町長室を近接配置する計画とし、災害時の速やかな災害対策本部の設置を可能とします。
- 災害対策本部設置時には、2階多目的ルームを災害対策準備室として活用し、外部機関からの大人数の受け入れに配慮するとともに、役場と消防の連携を促します。
- 3階議場や委員会室、議員控室を、町民の一時避難場所として活用する計画とします。



内装計画

■ 仕上材料の基本的な考え方

□低温、多雪という遠軽町の地域性を考慮した材料及び工法を選定します

- 多くの町民に利用される役場と消防の建物用途を考慮し、使用部位ごとに適切な仕上計画とします。
- 耐久性、メンテナンス性、経済性を考慮して総合的な判断で材料選定を行います。
- 可能な限り地域産材を利用した遠軽町らしい建物とします。
- 材料の持つ特性を理解し、また素材の魅力を生かした使用方法を検討します。

□内部仕上

[共用部]

- 多くの町民に利用される共用部は、耐久性が高く防汚性に優れた材料を選定します。
- 1、2階の床材は、雪の引き込みやスパイク靴での来庁を考慮し、防滑性のある硬質な材料を選定します。
- 天井には部分的に木材の使用を検討し温かみのある雰囲気を出し、背面には適切に吸音材を施すことで不快感のない音環境とします。

[執務室・会議室]

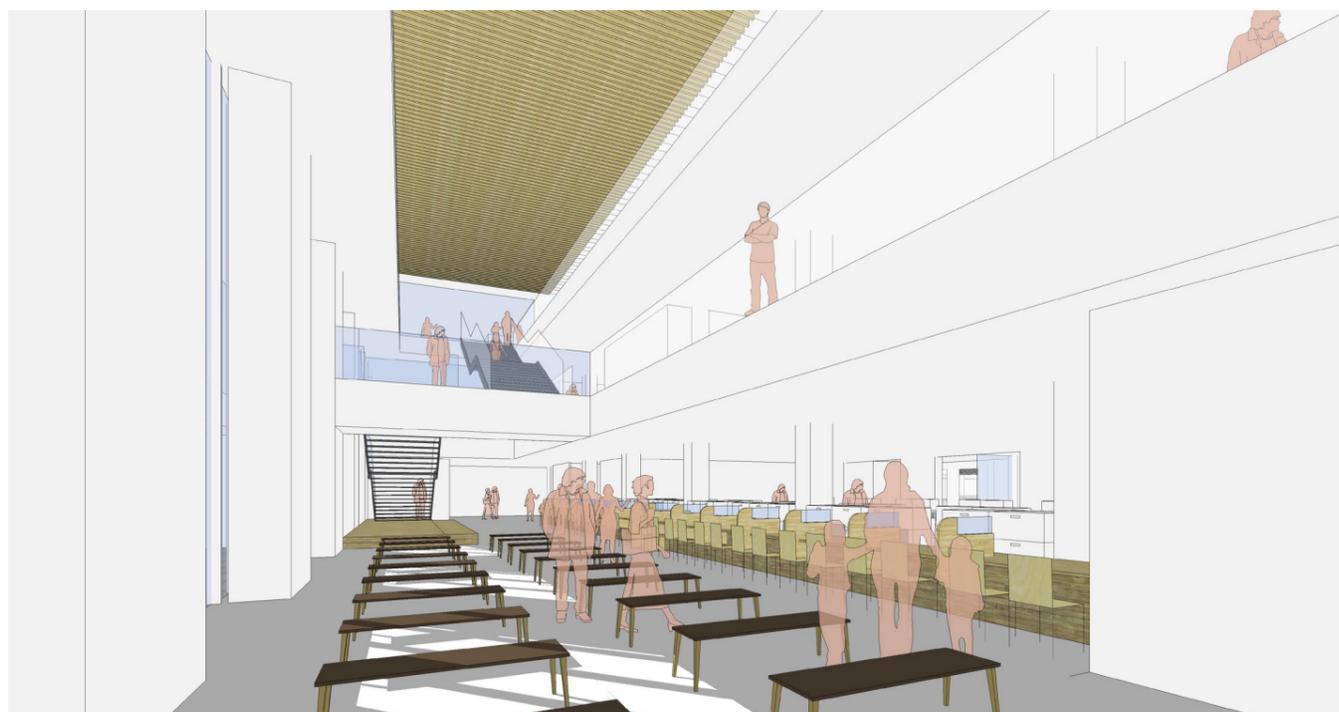
- 床材は、フリーアクセスフロアに対応可能で経済的、日常清掃が容易なタイルカーペットとします。
- 大面積の執務室の無天井部分には適切に吸音材を設置します。

[議場]

- 壁・天井には木材の使用を検討し、温かみのある遠軽町らしい内装計画とします。
- 床材は吸音効果のあるカーペットとするほか、天井や壁の一部にも必要に応じた吸音材を設置します。

[その他諸室]

- 耐久性、経済性に優れた仕上材料を選定します。
- コーナーや壁面には、必要に応じて補強材を入れるなど、耐久性を高める措置を検討します。



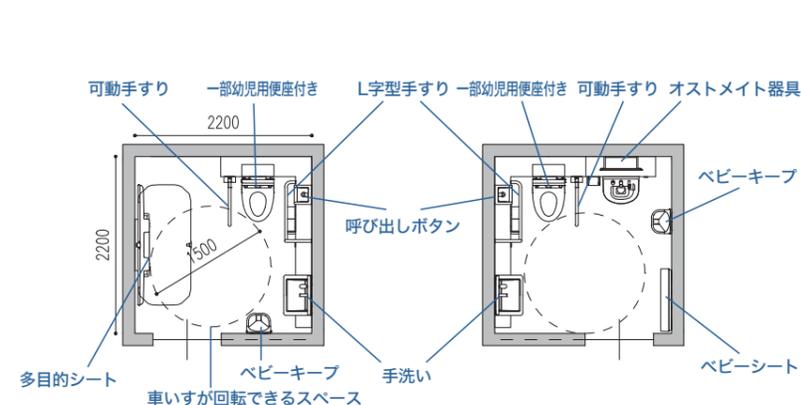
内観イメージ

ユニバーサル計画

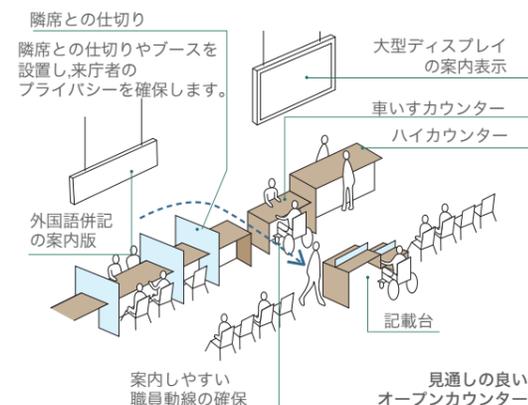
■ ユニバーサルデザインの考え方

□誰にでも安全で利用しやすい庁舎

- 利用者の年齢、障がいの有無、性別、国籍にかかわらず、安全に利用できるユニバーサルデザインに配慮した計画とします。
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」「北海道福祉のまちづくり条例」に基づき整備します。



多機能トイレレイアウト例



窓口カウンターイメージ

サイン計画

■ サイン計画の考え方

□誰にとってもわかりやすい、建物と融合するサイン計画

- 多くの来庁者が安心して利用できる施設として、サイン表示は図記号(ピクトグラム)等を効果的に活用するほか、重要な情報には外国語を併記します。
- 部署別に色分けするなど、視認性の高い案内表示を行います。
- 目の不自由な方にも建物内の配置がわかるよう触知サインや点字サインを設置します。
- 地域産木材、もしくは町有材を用いた、あたたかみのあるピクトサインを検討します。
- フロア案内や誘導サインについては、車いす利用者も容易に目視できる高さに設置します。また、色分けについては弱視に配慮するなど、誰からもわかりやすい表示とします。



ピクトグラムイメージ



カウンター沿いでもわかりやすいサインのイメージ